

# たんぽぽ通信

Vol. 71 2015年8月10日発行 薬局事業部

## 加齢に伴う眼疾患



普段の生活の中で、中心がぼやけたり、歪んで見えたり、暗く見えにくくなったりしていませんか？  
もしかすると原因は「加齢黄斑変性」かもしれません。  
今回はこのお話をしましょう。

**黄斑とは**・・・私たちがモノを見る時に、目の中に入ってきた光を網膜という組織で刺激して受け取り、その信号を脳に送るために視神経に伝達します。その網膜の中心部分が黄斑です。

**加齢黄斑変性とは**・・・加齢とともに黄斑がダメージを受けて変化し、視力の低下を引き起こす病気のことです。黄斑が変性すると、モノが歪んで見えたり、視野の中心が暗くなったり、欠けたり、視力が低下したりするなどの症状が出ます。

原因・・・加齢と共に黄斑が委縮していく「委縮型」と、網膜のすぐ下に新しい血管が出来て、その血管が黄斑にダメージを与える「滲出（しんしゅつ）型」の二つの原因が考えられます。男性の発症率が多いと言われています。

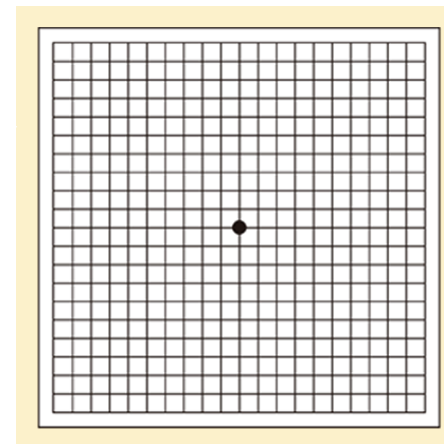
**治療方法**・・・「委縮型」については現在治療の方法がありません。  
「滲出型」は新生血管を鎮静化させる薬を注射するのが一般的です。  
多くの場合は片側の目から現れるため、見えにくさからもう片側の目が補ってしまうため、異常に気が付かないことが多く、治療が遅れることがあります。



2015  
August

40歳を過ぎたら、少なくとも年1回は眼圧検査、眼底検査、視野検査、隅角検査などの定期検診を眼科で受けましょう。

ここで簡単にできる加齢黄斑変性のチェックシートを添付します。



チェックの仕方

約30cm離れて、片目ずつマスの中心点を見てください。

- **線がぼやけていませんか？**
- **中心がゆがんでいませんか？**
- **部分的に欠けて見ませんか？**

このように見えたら受診されることをおすすめします。

### たんぽぽ通信からのお知らせ

ご質問、ご意見などございましたらお近くのエムトゥエムの調剤薬局にご相談ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

